

研究テーマ： 姫路城「平成の大修理」を事例とした障害者福祉に配慮した文化財保護のあり方	
研究代表者： 保健福祉学部 人間福祉学科 講師・吉田 倫子	連絡先： nyoshida@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：	
【研究概要】 「平成の大修理」を行う姫路城において、観光客のバリアフリー整備に対する意識の違いを明らかにするために、アンケート調査を行った。その結果、1. 造形の美しさの評価が高く、展示内容の充実度は低かった。修理の状況を見せ、本来の姫路城の歴史などを理解する展示が少ないことが要因である。2. バリアフリー整備について年齢よりも訪問回数、つまり姫路城への関心度で意見が分かれた。景観的には評価が高く、バリアフリー整備の浸透が影響している。	

1. はじめに

文化財を広く市民に公開することは大変意義深く、そのためには観光施設でもある文化財でのバリアフリー整備の充実が重要である。しかし、文化財は保護し、後世に伝えるという大切な役割がある。整備と保護の程度を決めるのは関連法に基づくものであるが、一般市民の理解にも大きく左右される。現在、姫路城では「平成の大修理」に伴い、バリアフリー整備が行われている。観光客にとって、どの程度文化財の価値を理解し、また観光施設として満足しているかを図ることは、今後バリアフリー整備を進めていくための指針となっていくと考えられる。

そこで、本調査では【目的①】姫路城における観光満足度及び文化財として価値の理解度を把握する。また、【目的②】バリアフリー整備に対する意識を明らかにし、文化財におけるバリアフリー整備の可能性について検討する資料とする。

2. 研究の方法

2-1 研究の方法

調査方法としては、姫路城の三の丸広場において、調査票を持った調査員が姫路城を観光し終えた観光客に、歩きながら質問をしていくといった、直接聞き取りによるアンケート調査である。

2-2 回答者の属性

回答者は表2に示すように、年齢別では40歳未満と40-64歳未満が同程度であった。また、回答者の現住所では2/3が他の都道府県であった。また、訪問回数は初めての人が43.2%であ

った。

表1 バリアフリー整備意向調査の概要

日程	平成25年3月26日
対象	当日の姫路城を訪問している観光客
方法	調査員の直接聞き取りによるアンケート調査
回収数	217票 (有効票数213票)
目的	姫路城観光客の観光満足度及びバリアフリーに対する意識の把握のため
主な質問項目	当日の観光内容(訪問回数、天守閣登城の有無など) 姫路城に対する満足度・認知度 他城郭への訪問の有無、満足点 姫路城のバリアフリー整備

表2 回答者の属性

年齢	40歳未満	40~64歳	65~74歳	75歳以上	未回答	計
人数(人)	79	77	43	10	4	213
割合	37.1%	36.2%	20.2%	4.7%	1.9%	100.0%
性別	男性	女性	未回答	計		
人数(人)	112	96	5	213		
割合	52.6%	45.1%	2.3%	100.0%		
住所	姫路市内	兵庫県内	他の都道府県	未回答	計	
人数(人)	30	46	137	0	213	
割合	14.1%	21.6%	64.3%	0.0%	100.0%	
訪問回数	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
人数(人)	92	49	14	3	55	213
割合	43.2%	23.0%	6.6%	1.4%	25.8%	100.0%

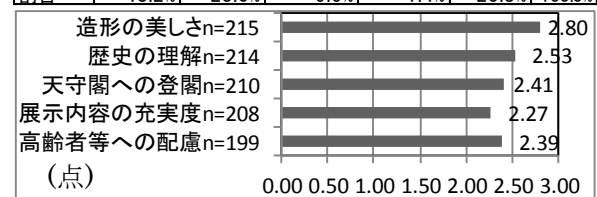


図1 観光満足度の結果

3. 調査の結果

3-1 観光満足度と文化財の価値の理解度

観光満足度を見ていく。3点満点で回答を待た。回答者の総計を平均したもので見ていくと、造形の美しさが最も高く2.80点であった。最も低かったのは展示内容の充実度であった。

次に、文化財の価値への理解では縄張りの特徴の認知は45.6%(n=217)、天守閣の特徴は

44.9% (n=216)、現存天守は 67.4% (n=215)であった。

3-2 バリアフリー整備に対する意識

姫路城では現在天守閣修理見学施設までの見学路において仮設のスロープを設置している。この仮設のバリアフリー整備に対する意向を尋ねると、景観の視点では「守られている」と回答した人は 47.8%で、文化財の価値が「守られている」と回答した人(41.7%)よりも多くなっている。

また、現在の姫路城のバリアフリー整備が十分かどうか尋ねたところ、「十分である」28.9%、「ある程度十分である」36.8%、「やや不足」20.4%、「不足」13.9%であった。

3-3 属性別のバリアフリー整備に対する意識

現在の仮設のバリアフリー整備により文化財の価値が守られているかどうかについて、属性別の意識の違いを見ていく。年齢別では「守られている」「ある程度守られている」と回答した割合は 40 歳未満で 75.3%、40~64 歳で 72.9%、65 歳以上で 75.0%と同程度であった。訪問回数別では、「守られている」と回答した割合が最も高いのは、2 回で、次いで初めて、3 回以上となっている。

現在のバリアフリー整備に対しての意識について、年齢別では「十分」が最も多いのは 65 歳以上で、次いで 40 歳未満、40~64 歳の順であった。65 歳以上の高齢者と 40 歳未満の若い人で現状に満足している人が多い。訪問回数別では、「十分」が 3 回以上で最も多く、次いで初めて、2 回の順であった。3 回以上の人々が現状に満足している。

4. 考察

4-1 観光満足度と文化財として価値の理解度

現在天守閣の修理を行っているにもかかわらず、観光満足度では造形の美しさに対する評価が最も高かった。これは、修理見学施設でより身近に天守閣の造形を観察することができることによる。一方で、展示内容の充実度が最も低く、姫路城の特徴の認知も低かった。修理の状況を見せることに重点を置くため、姫路城の歴史などを理解する展示が少ないことが要因と考えられる。ただし、修理前の姫路城においても天守閣内部にはあまり展示がされていなかった。修理後の展示内容は十分に検討する必要がある。

4-2 バリアフリー整備に対する意識の違い

修理時のバリアフリー整備では、不足していると感じている人が全体で 3 割程度いた。また、現状の仮設スロープに対しては、守られているとの意見が多くを占めており、整備の方法を容認していることが分かる。特に景観的に問題が少ないと感じている。近年様々な場所でスロープが常設・仮設に限らず設置されており、受け入れられ安くなっていることが分かる。

仮設のバリアフリー整備により文化財の価値が守られているかどうかでは、年齢別よりも訪問回数別で差異がみられた。また、現状のバリアフリー整備に対しては、年齢別、訪問回数別の両方で属性による差異がみられた。以上よりバリアフリー整備については年齢別よりも、訪問回数、つまり姫路城への関心の違いで意見が分かれることが分かった。

5 おわりに

現状のバリアフリー整備については観光客より高い評価を得た。しかし、初めて訪れた回答者も多いことから、バリアフリー整備のない状態との意識の違いを見ていく必要がある。

表 3 年齢別の仮設のバリアフリー整備に対する意向 (上：年齢別，下：訪問回数別)

文化財の価値	守られている	ある程度守られている	やや損なっている	損なっている
40歳未満 n=81	39.5%	35.8%	16.0%	8.6%
40~64歳 n=74	43.2%	29.7%	16.2%	10.8%
65歳以上 n=48	41.7%	33.3%	12.5%	12.5%

文化財の価値	守られている	ある程度守られている	やや損なっている	損なっている
初めてn=89	41.6%	34.8%	10.1%	13.5%
2回n=48	47.9%	31.3%	18.8%	2.1%
3回以上n=66	36.4%	31.8%	19.7%	12.1%

表 4 属性別の現在のバリアフリー整備に対する意識

(上：年齢別，下：訪問回数別)

	十分	ある程度十分	やや不足	不足
40歳未満 n=81	28.4%	40.7%	18.5%	12.3%
40~64歳 n=69	23.2%	33.3%	24.6%	18.8%
65歳以上 n=50	38.0%	34.0%	18.0%	10.0%
	十分	ある程度十分	やや不足	不足
初めてn=87	27.6%	40.2%	18.4%	13.8%
2回n=47	25.5%	36.2%	21.3%	17.0%
3回以上n=66	33.3%	31.8%	22.7%	12.1%

※本稿は日本福祉のまちづくり学会第 16 回全国大会にて発表したものを転載しています。

[研究区分： 科研費獲得支援]